

未来への 伝言

くらしと文化を支えた

もの・モノ・物



へえー、こんなくらしがあったんだ!?

わたしたちは今、20世紀最後の年から21世紀への境目にいます。大きく時代の移り変わるこの時、時代のものさしの一目盛として、次の世代にどんな印象の歴史の1ページとして伝えることができるでしょうか。

郷土資料館では、私たちの父や母、おじいちゃんやおばあちゃんたちが使っていた懐かしい道具や物をたくさん集めてみました。また、その一方で、この1世紀の間に目を見張るような著しい進化を遂げた新しいモノも集めました。

一堂に集めた新旧のモノの中から「未来への伝言」を見つけてみませんか。



会期

平成12年

平成13年

10月29日(日) ▶ 2月25日(日)

三島市郷土資料館

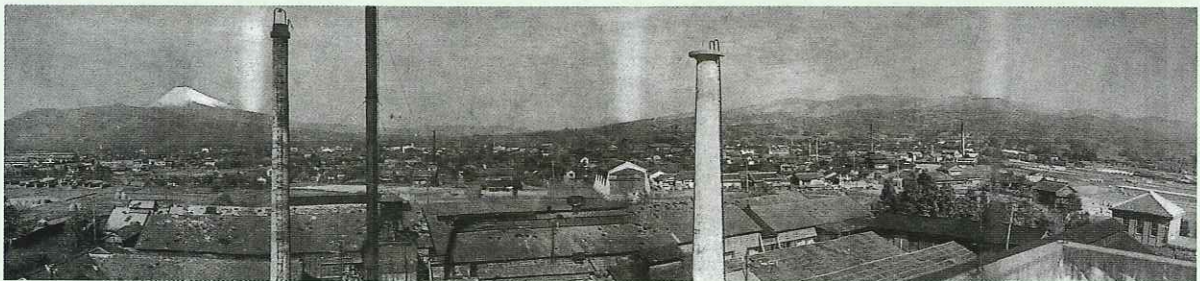
三島のかつての町並み

明治維新の後、江戸時代の宿駅制度が廃止されました。東海道の宿駅として発展した三島は、郡役所が設置され北伊豆の政治の中心となり、1889年(明治22)の「市町村制」の施行によって「三島町」として誕生しました。

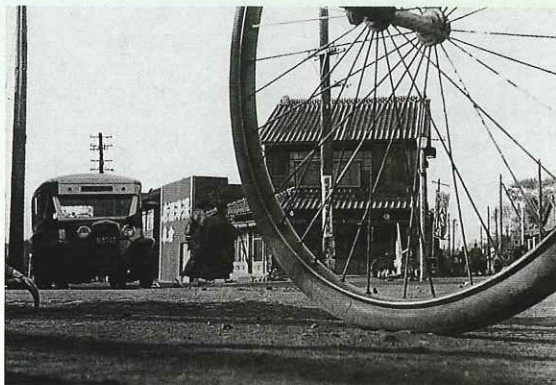
20世紀は、華やかな宿場時代から東海道線が三島を通らず、取り残されさびれた町になって幕が開けました。地元有志が奮起し1898年(明治31)豆相鉄道をつくり三島駅(現下土狩)から南条(現伊豆長岡)に接続したことで、町は少しずつ活気を取り戻しはじめます。

大正時代になると野戦重砲兵連隊を誘致し、その関係部門も移転してきます。三島町は軍人の町として生まれ変わり、人も増え商店街などが一段と活気づきました。

昭和時代に入り1934年(昭和9)には丹那トンネルが開通します。新しい三島駅ができ京浜地方との交通の便が改善され、三島は伊豆の玄関口としての役割を果たすことになりました。1930年(昭和10)北上村との合併、そして昭和16年に至って錦田村との合併により三島市が誕生しました。



三島駅より北部全景 1950年(昭和25)



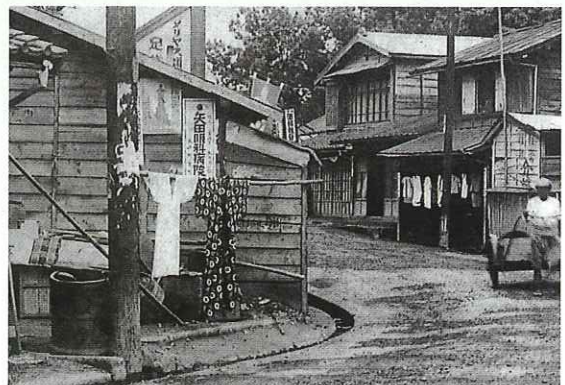
三島駅前にて 1936年(昭和11)



久保町通り 三島の絵葉書より 1946年(昭和21)ころ



酒屋、江一商店 大正時代



中島・下田街道の改修前の様子 1935年(昭和10)ころ

職人のまち

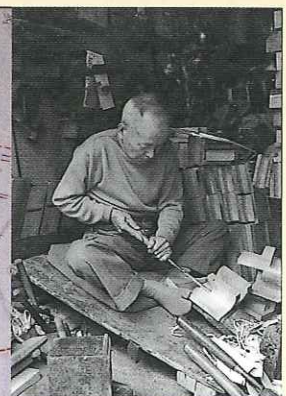
「亀ちゃんの家は唐傘屋^{からかさ}だった。唐傘は三島の名物のひとつであった。底まですきとおる清流が家のなかの土間までとりいれられていて、そこに青竹の筒の束がつかっている。

亀ちゃんのお父さんは、その板の間にあぐらをかいてすわって、年がら年じゅう、傘の骨をけずっていた。細い竹骨が組み立てられ、柄がすげられると、和紙がはられ、油を刷いて仕上げられる。そのあいだ、いくたびも日なたにひろげられて干される。それらは大部分、お母さんの仕事であった。

川ばたの芹田のくろに、ずらりとひらいて干された何百というから唐傘の風景は、まるで夢の花園のようなながめであった。」
 (『ジンの音』小出正吾より)



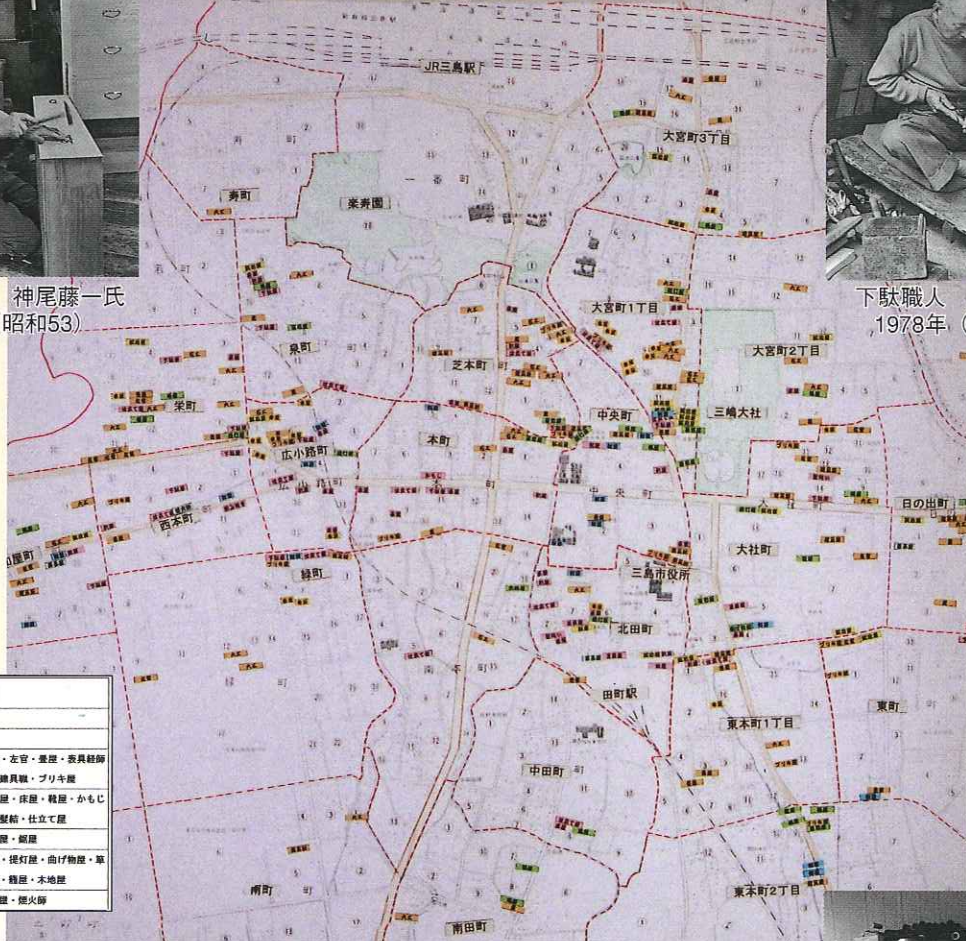
たんす職人 神尾藤一氏
1978年(昭和53)



下駄職人 清田万作氏
1978年(昭和53)

三島の職人分布図

(明治から戦後)



凡 例	
傘屋	黄色
紺屋	青
建築関係の職人	赤
衣類関係の職人	緑
生産道具を作る職人	紫
家で使う道具を作る職人	茶
その他の職人	白

古くから三島は伊豆の中心地。田方・駿東をはじめ、伊豆一円から生活必需品を求めて三島へ多くの人々が集まりました。三島の町の中でも特に職人たちが集中しているのは広小路駅界わい、三嶋大社界わい、田町駅界わいです。三島の特徴的な職種である傘屋と紺屋(こうや)は広小路付近(千貫樋用水沿い)や水上(桜川沿い)に集中しています。傘屋も紺屋も豊富できれいな水の流れを利用した職種でした。この分布図は明治期からごく近年まで三島に在ったという職人の分布を調べ、地図に記したものです。



桶職人 森朋一氏
1978年(昭和53)

三島の職人分布図

道具のぬくもり

三島の近隣では、農業地帯で稲作・畑作に使われる鍬・マンガ(馬鍬)・鎌・千歯・俵編みなど、農業にかかわる道具を多く使ってきました。また農家や商家では生活に必要な茶碗・桶・行灯・箆笥など数多くの道具類に囲まれていました。

100年前は、これらの道具は近隣の職人たちが作っていました。傘を作る職人、下駄を作る職人、鍬や鎌を作る鍛冶屋など、生活に必要な道具類を作る、専門の職人がいました。これらの道具は単なるモノではなく、作る職人と使う人の心が通い合っていました。また大量に作ることができないため、具合が悪くなると修理して何代、何十年にもわたって使うなど、大事に使っていました。

その後、機械化が進み大量生産が可能となり、材質が金属、プラスチックなどに変わりました。現在でも箕、樽、弁当箱などの模様には昔の材料の名残りをみることができます。しかし、使い勝手や品質は、職人の手による道具にはかないません。

最近では再び、手作りの道具が見直されてきています。



囲炉裏のある農家(資料館内復元家屋)



フネ 夏、冷たい湧水に浮かべ冷蔵庫にした



暑さの中 涼をとる



広瀬川で洗濯 1938年(昭和13)



龍沢寺に行く道にて 1936年(昭和11)



かまどと羽釜

家電製品のあゝ現代

1950年代(昭和30年前後)まで、主婦の仕事は大変な重労働でした。毎朝炊き立てのご飯を用意するために、薄暗いうちから^{かまど}竈に火を起こすことから始め、洗濯も洗濯板にしゃがんで体重をかけて力を入れて揉みだし、そしてほうきで家中を掃くなど、毎日の家事に多くの時間がとられていました。

1953年(昭和28)電気洗濯機、電気冷蔵庫、電気掃除機が相次いで発売され、「三種の神器」と呼ばれ、「電化元年」が流行語になりました。つづいて1955年(昭和30)、寝ている間にご飯が炊けるという主婦にとっては夢のような電気釜(自動炊飯器)が大ヒットしました。東京オリンピック(1964年・昭和39)の頃にはすでに多くの家庭に普及し、家事仕事も大きく軽減されました。電化することにより、《人が道具を使って仕事をするのではなく、人が道具に仕事をさせる生活様式》になったといえます。

1966年(昭和41)には、あこがれの〈3C〉カラーテレビ、クーラー、カー(車)が登場し第二次家電ブームを迎え、ますます私たちの身の回りには小型で便利な家電製品が満ち、便利で快適な生活になってきました。



手回し計算機 1955年(昭和30)ころ



電卓—電子卓上計算機
1972年(昭和45)ころ



白黒テレビ 1965年(昭和40)ころ

計算機

テレビ



真空管ラジオ 1935年(昭和10)



BCLラジオ(1976年)
トランジスタラジオ(1962年) カードラジオ(1985年ころ)



カメラと映写機
1975年(昭和50)ころ

ラジオ

8ミリ映画



オープンリール式テープレコーダー
1960年(昭和35)ころ



ラジカセ 1975年(昭和50) ウォークマン(初代)
1979年(昭和54)

テープレコーダー



ステレオセット 1970年(昭和45)ころ

オーディオ

思い出

秋元 実



夕ぐれの丘 三島駅付近にて
1939年（昭和14）

しょうがつ
正月三日の空は
ピカピカとまっさおに輝きわたり
のんびり朝寝している雲すれすれに
たこがいくつかあがっていた
どこかで テレテケテレ、テレテケテレと
威勢のいい獅子舞のたいこの音がした
三島の町の大通りは人でうずまっていた
わたしときんちゃんは
大社の鳥居のそばの出店の前に立った
「おじさん、それくんな」
「どれ？」
「その弁慶の。」



みずあそび 菰池にて
1938年（昭和13）



三島の空き地にて凧あげ
1936年（昭和11）

私は五十銭玉で
ふんと絵の具のにおいのする大だこを買った
胸がドキドキした
はちきれそうだった
それから三十年
わたしは四十才の大人になり
テレビ・アンテナが林立し
高級自動車のごたつく町を歩いている
もっと青くて
もっと広がった空のどまんなか
さかなのようにゆうゆうと泳いでいた
弁慶だこのことを思い出しながら



大正時代の絵本、おもちゃ

（『駿東文園』昭和37年1月1日号より）



山中新田 昭和初期の絵葉書より



電蓄（電気蓄音機）
1935年（昭和10）ころ

未来への伝言

電化製品が普及するまでは、それぞれの地域でいろいろな行事や習慣、遊び、そして土地にあった道具を使っていました。

大量生産で生まれた電化製品が普及するようになって、全国で同じモノが使われるようになりました。また、飲食物も大工場で作られ、全国に輸送されています。遊びもキャラクター商品やテレビゲームなど、昔に比べ地域差がなくなってきました。

100年前、飛行機はまだありませんでした。しかし今では気軽に海外旅行を楽しめるようになりました。電話も町に数台の時代から、一人1台持つ時代になり、交通機関や情報網の整備で、人々の距離が近づきつつあります。

さらに今やインターネットで個人が居ながらにして、世界中に発信し、情報を入手できる情報化社会に急速に進化しています。

この100年、生活様式が急激な速度で近代化され、快適化されてきました。しかし、忘れてはならないものまで忘れ去り、捨てるべきでなかったものまで切り捨ててきてしまったものもあるのではないのでしょうか。

あなたは、未来へなにを伝言しますか？

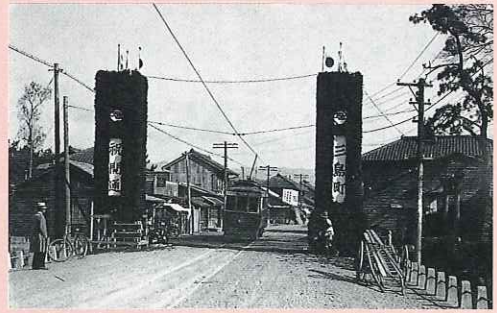


さまざまなテープやディスク

8インチ、5インチ、3.5インチのフロッピー。VHSやベータ、8ミリのビデオテープ。カセットテープとマイクロカセットテープ。レーザーディスクからDVDへと開発が進む。



世代交代の早いワープロ、パソコン



三島沼津間のチンチン電車 1963年(昭和38)、57年の歴史を閉じた



日大の通りのイチョウ並木 1957年(昭和32)



塚原バイパスの開通 1977年(昭和52)



下田街道バイパス 1970年(昭和45)



三島広小路の賑わい(三島宿場まつり) 2000年(平成12)

20世紀の三島のできごと

西 暦	年 号	三 島 の 出 来 事	西 暦	年 号	三 島 の 出 来 事
1901年	明治34年	三島病院(現社会保険病院)開設される	1961年	昭和36年	台風6号、中郷地区被害
1902年	〃 35年		1962年	〃 37年	国道一号三島バイパス、開通
1903年	〃 36年	三島の家庭に電灯つく	1963年	〃 38年	チンチン電車、廃止
1904年	〃 37年	三島町、日露戦争198人応召(13人戦死)	1964年	〃 39年	三島市、石油コンビナート反対決議
1905年	〃 38年	三島に電話開通	1965年	〃 40年	市街地、町の名変わる(住居表示)
1906年	〃 39年	三島-沼津間に、チンチン電車開通	1966年	〃 41年	佐野美術館オープン
1907年	〃 40年	三島尋常・高等を廃止、第一・二尋常小開校	1967年	〃 42年	工業団地(長伏)、完成
1908年	〃 41年	自家用車三島に現れる	1968年	〃 43年	国道下田バイパス、開通
1909年	〃 42年	俳諧の孤山堂凌頂氏死去	1969年	〃 44年	新幹線三島駅、開業
1910年	〃 43年	在郷軍人会三島町分会結成	1970年	〃 45年	三島市民憲章、市の木・花を制定
1911年	〃 44年	大火、三ツ谷を全焼する(50戸)	1971年	〃 46年	旭ヶ丘団地、完成、郷土館開館
1912年	〃 45年 大正元年	演芸「三島劇場」市ヶ原に完成	1972年	〃 47年	国立三島病院、閉じる
1913年	大正2年	三島警察、小中島より田町に移転	1973年	〃 48年	メディカルセンター、完成
1914年	〃 3年	三島にハイヤー走る	1974年	〃 49年	七夕豪雨、被害をもたらす
1915年	〃 4年	町立図書館、第一尋常小学校内に設置	1975年	〃 50年	第一回青空市民祭
1916年	〃 5年		1976年	〃 51年	下水道、供用開始
1917年	〃 6年	極東煉乳・日本煉乳、操業	1977年	〃 52年	初音台団地、完成
1918年	〃 7年	三島家政女学校開校	1978年	〃 53年	錦田グラウンド、完成
1919年	〃 8年	野重砲兵連隊三島に来る	1979年	〃 54年	加茂住宅団地、完成
1920年	〃 9年	大場川洪水、中郷地区襲い死傷者出る	1980年	〃 55年	第一回市民健康マラソン
1921年	〃 10年		1981年	〃 56年	祇園大橋、完成
1922年	〃 11年	三島-沼津間バス開通	1982年	〃 57年	青少年健全育成都市、宣言
1923年	〃 12年	箱根新国道開通、車の山越えなる 関東大震災、大場地区も被害	1983年	〃 58年	水緑都市モデル地区の指定
1924年	〃 13年		1984年	〃 59年	市老人福祉センター完成
1925年	〃 14年	三島第三尋常小学校、開校	1985年	〃 60年	新幹線ひかり号三島に停車
1926年	〃 15年 昭和元年		1986年	〃 61年	人口10万都市となる
1927年	昭和2年	警察署に電動警報サイレン設置	1987年	〃 62年	国道三ツ谷バイパス完成
1928年	〃 3年	三島火葬場(加茂ヶ洞)完成	1988年	〃 63年	市役所中央町別館オープン
1929年	〃 4年	事業家、花島兵右衛門氏死去	1989年	〃 64年 平成元年	有機溶剤、地下水汚染問題化
1930年	〃 5年	北伊豆震災、大被害出る	1990年	平成2年	集中豪雨、大場川流域に被害でる
1931年	〃 6年	三島町役場、現在地に移転	1991年	〃 3年	市民文化会館、完成
1932年	〃 7年	暴風雨中郷を襲う(全壊27戸)	1992年	〃 4年	水の散歩道、源兵衛川親水公園一部完成
1933年	〃 8年	地震復興、近代的商店街出現	1993年	〃 5年	市の広報、有線テレビからお知らせ
1934年	〃 9年	丹那トンネル開通、三島駅開業	1994年	〃 6年	市指定ゴミ袋統一
1935年	〃 10年	北上村、三島町と合併	1995年	〃 7年	国土庁より「水の郷」に認定
1936年	〃 11年	野口三四郎氏、人形芸術院賞受賞	1996年	〃 8年	中郷文化プラザ、オープン
1937年	〃 12年	三島、ガス供給始まる	1997年	〃 9年	生涯学習センター・みしま聖園・防災センター完成
1938年	〃 13年	太宰治、三島の風物小説「満願」発表	1998年	〃 10年	地球温暖化防止都市宣言
1939年	〃 14年		1999年	〃 11年	三島警察署、谷田へ移転
1940年	〃 15年	農兵節の平井源太郎氏死去	2000年	〃 12年	環境ISO14001取得
1941年	〃 16年	錦田村合併し、三島市となる	出品協力者 駿東郡清水町教育委員会 しもやま看板店 大隅英一 森由起枝 写真協力 「川辺武氏遺作集」より 参考文献 『昭和生活なつかし図鑑』平凡社1999年 『昭和台所なつかし図鑑』小泉和子 平凡社1998年 『家具』小泉和子 東京堂出版 1995年 『道具が語る生活史』小泉和子 朝日新聞社 1989年 『昭和家庭史年表』河出書房新社 1990年 『ジントの音』小出正吾 『駿東文園』第15集第10号 1962年 「昭和30年代の社会と家族」『昭和30年代の暮らし』 布施晶子 小樽市博物館 1993年 『ふり返る20世紀』三島市郷土資料館 1998年		
1942年	〃 17年	市内の貴金属供出、始まる			
1943年	〃 18年	中島飛行機、三島へ進出			
1944年	〃 19年	森永三島工場、ペニシリン抽出に成功			
1945年	〃 20年	熱海市と共同製塩始める			
1946年	〃 21年	日大予科開校			
1947年	〃 22年				
1948年	〃 23年	市営水道始まる			
1949年	〃 24年	国立遺伝学研究所、三島に開所			
1950年	〃 25年				
1951年	〃 26年	三島沼津新国道、開通			
1952年	〃 27年	楽寿園、市民に開放(入園料12歳以上20円)			
1953年	〃 28年	映画ロケ「坊ちゃん」三島に来る			
1954年	〃 29年	中郷村、三島市と合併			
1955年	〃 30年	富士箱根伊豆、国立公園に指定			
1956年	〃 31年	三島市産業物産館(公会堂)、完成			
1957年	〃 32年	ラジオ静岡三島局、開設			
1958年	〃 33年	狩野川台風。東レ三島工場、操業			
1959年	〃 34年	三島市、平和都市(非核武装)宣言			
1960年	〃 35年	市役所新庁舎完成			

企画展・未来への伝言

会 期 平成12年10月29日～平成13年2月25日
 発行者 三島市郷土資料館
 〒411-0036 三島市一番町19-3 楽寿園内
 TEL(0559)71-8228 Fax(0559)81-3730
 発行日 平成12年10月29日